

「損か得か 人間のものさし うそかまことか 仏様のものさし」という聖句があります。

「ものさし」というのは、行動の指針とか、生活を営む上での基準という意味です。

仏教の開祖である釈尊(お釈迦様)は、人がうらやむような生活が保障された一国の王子でありながら、それを捨てて出家の道を選びました。自らの人生の目標を達成するために、損か得かの人間のものさしでいえば、「大損」をあえて選択したわけです。その選択が「仏教」を生み、2500年以上経った今でも世界中の人々の人生のよりどころとなっています。

マザー・テレサは、若くして修道会の学校の校長先生となりましたが、インドの大会都(コルカタ(カルカッタ))のスラム街で貧困にあえいでいる人々に援助の手を差し伸べるため、学校を辞め、たった一人でスラム街に入って行きました。

これも「大損」でしょう。マザーがひとりで始めたこの活動は、大きな実を結び、「神の愛の宣教師会」として今では、世界中に広がっています。

私たち人間の知恵は便利で豊かな社会を作り上げてきました。お蔭で快適な生活を送ることが可能になりました。夏は冷房、冬は暖房が当たり前です。しかしながら快適な生活の中で様々な矛盾を生み出しています。温暖化で自然を破壊する。公害で健康被害を生みだす。さらに生きていく意味が「今をオモシロオカシク」とな

ってしまい、他人をだましてでも金儲けをする人間・社会を作ってしまったと言えは言い過ぎでしょうか？

コンペイトウが入った壺の中に手を入れ、コンペイトウをたくさん握ったままなので手が抜けなくなつた猿という笑話がありますが、私たちは快適な生活を

手放すことはできません。がしかし、世の中の矛盾に眼を向け、「うそかまことか」のものさしで眺めてみることはできます。まずはそこから始めて、自分の生き方を見直したり、少しずつ行動にうつしたりしたいものです。そうすることによって「自己中心」であった見方、考え方が、「共に生きる」と変化して行くのではないのでしょうか。

